



◎古民家を再生して新たな施設を造ろうと協力した北浜さん(左)と山口さん ◎むき出しの梁が昔ながらの趣を醸し出すホテル「だいな荘」の客室=いずれも坂井市のミナト&~minato~to~で

「ミナト&~minato~to~」

三国古民家に新たな価値

カフェ、物販店、宿泊施設が入る

坂井市の旧三国町市街地に、空き家の古民家を改修した施設「ミナト&~minato~to~」が誕生する。木造2階建てにカフェや物販テナント、恐竜をコンセプトにした宿泊施設「だいな荘」が入り、魅力たっぷりな施設となる。関係者は空き家を活用し、新たな価値を生み出そうと意気込んでいる。(坂本碧)

建材業者、旅館がタッグ

住宅建材製造のファーストウッド(本社東京都、本店福井市)が改修工事を手がけ、だいな荘やカフェの運営をあわら温泉(あわら市)の旅館・グランディア芳泉が担う。坂井市三国町山王2にある築100年以上の建物で、元は住宅として使われていた。

ファーストウッド経営企画部長の北浜甲一さん(38)によると、各地で増える空き家の活用には、改修コストやどのようなニーズを生み出すかといった課題が多い。北浜さんは「宿泊も買いたい物もできる『ミナト&~minato~to~』で、空き家にはこんな活用方法もある」と三国から発信したい」と話す。

1階(109平方メートル)にカフェや6区画のテナントスペースがあり、階段を上った2階(68平方メートル)が客室2部屋からなる「だいな荘」になっている。屋内はリノベーションした上で柱や梁を再利用し、昔ながらの趣を感じられる。

1階は一部を除き9月1日にオープン。カフェは坂井市のコーヒー店からサードピース研修などの協力を得る。テナントは既にオープンしたオーガニック食品などの店のほか、駄菓子屋、マッサージュ店、土産物店などが候補に挙がっている。

「だいな荘」は8月1日に営業を始めた。定員3人の「フクイサウルス」と2人の「フクイティタン」があり、壁のデザインなどに恐竜が使われている。食事の提供はなく、近隣の飲食店を利用してまちの魅力を感ぜてもらおう。

グランディア芳泉の山口高澄常務(36)は「あわら市と坂井市の人の交流を深める役割ができれば、他業種と連携を広げていくことで、観光を盛り上げたい」と話す。